



# 星川だより



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報



八月は反戦平和の月、戦争犠牲者への慰霊と二度と戦争を起こさない誓いの月として、各地で様々な催しが企画されます。しかし今年は、コロナ禍で多くの催しが中止を余儀なくされました。そのような状況下でしたが、私たちは感染防止に配慮し、熊谷平和講座の拡大版として講演会を実施しました。熊谷空襲から七十五周年という節目の年にあたり、事務局では、どのような形であれ開催しようということまで一致しました。

●日にち 八月二十三日(日)

●場所 熊谷市緑化センター

●講師 加藤一夫氏「戦後という時代」戦後七十五年を考

える」

●講師 大井教寛氏「熊谷空襲とその時代」

当日は、緑化センターの新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインに沿って人数制限(予約制)や密を避け換気、消毒などを行い、異例の開催となりましたが、制限人数いっぱいでの盛況でした。星川だより十月号には、ご参加いただいた西堀氏の寄稿を掲載します。

## 戦後七十五周年記念講演会に参加して

西堀邦雄

母が若かったころ、火の海(本人はそう言っていた)の中を熊野神社の方へ、線路伝いに職場の寮の同僚たちと必死になつて逃げた、と子どものころからよく聞かされていました。

そのことが私の空襲観を形づくったのかなと思います。特別なものではなく、空気のように意識するようなものでもありません。教養のひとつとして知っていたほうがよいという程度のものであったように思います。

大井教寛さんが語ってくれた、空襲の記録、被災にあつた方の証言、調査して判明した関連史跡などから、熊谷空襲はどういうものだったのか知ることができたと思います。

全住戸の40%にあたる民家か焼失した、人々の日々の暮らしになくしてはならない学校、役所、銀行、工場などはあの場所にあつたのか、そして今そこは別の建物になっているんだ。かけがえのない一人一人の命、二百六十六人の尊い生命が断たれたんだ。わかつているこれらの事実が空襲というものの真実なんだと、気づかせてくれました。そして、熊谷陸軍飛行学校はやらなかったとは、何ということか。

戦闘員ではない一般市民を狙つた殺人行為そのものです。爆弾や焼夷弾を落とせば多くの人間の命や未来を奪うことになるのは明らかです。あえてそれを実行したのです。犯罪であり罪を償うべきです。空襲は戦争によって引き起こされま

に責任をとって謝罪し、救済すべきでしょう。戦地で生命を落とした兵だけが戦争犠牲者ではないでしょう。

そんなことを投げかけたお話だつたと思います。

## 熊谷空襲七十五周年記念「最後の空襲・熊谷」出版のお知らせ

計画では八月十四・十五日に合わせて発売する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により、当プロジェクトは約四カ月中断され計画通りの出版ができなくなりまして。しかし、七月からどうにか再開することができ、出版予定日を十二月八日に変更し編集作業を進めています。

そんな中、八月十五日の埼玉新聞と東京新聞に、熊谷女子高校で行つた、熊谷空襲体験者に高校生がインタビューする様子が大きく取り上げられました。編集メンバー大いに勇気づけられた次第です。今回の出版プロジェクトの目玉企画で、熊谷女子高校のほか小川高校と伊奈学園総合高校の生徒がインタビュー

ーとして、体験者から戦争・空襲の記憶を聴き、その内容と感想を綴ってもらいました。そのほか、熊谷で文化活動を担っている方々の座談会などバラエティーに富んだ内容になっています。正式の発売日および価格など決まり次第お知らせします。(編集部)

## 2020年の灯ろう流し

小川美穂子



戦後七十五年のこの夏。さまざまな夏の恒例行事が中止となって寂しいものがありました。当然、星川の灯ろう流しも中止と発表されましたが、十五日の敗戦記念日に伺った

石上寺で、こじんまりと法要を行うと教えていただきました。

八月十六日五時半、星川に行くと、まだ明るい中で、関係者が立ち働き、戦災者慰霊之女神像の前に祭壇が設えられています。石上寺住職と円照寺の若住職のお二人が着席して読経が始まりました。来賓は富岡清熊谷市長、藤間憲一熊谷市観光協会会長、大久保和政熊谷商工会議所会頭。関係するスタッフらが静かに周りを囲んでいました。毎年このことながら、ここで亡くなった空襲被災者のことを思いながら、未だに世界各地で戦争が行われている人間社会の矛盾に思い巡らせます。

普段なら親子連れや、近所のお年寄りなどが参加して、ボランティアの中学生や商店街の方々が作った灯ろうを流すわけですが、ごく簡単に来賓が石上寺住職が用意した灯ろうを流して終わりました。天台宗では経木を流すのが好きたりということ。こうして静かな送り盆が終わりまりました。

思えば、私が灯ろう流しに参加するようになってから、主催者もスタイルもいろいろと変わりました。地元の星川保勝会が会員高齢化により運

営に携われなくなってきたから、政教分離だから熊谷市は主催者にはなれないということ。熊谷市観光協会や商工会婦人部などが後を引き受けていました。なかなか難しいものがあつたよう。開催を危惧するという新聞記事が出た年もありました。そんな中でも、一九五〇年からずっと続いてきた灯ろう流しです。来年はどうなるでしょうか。

今年、熊谷空襲について改めて調べていくわかったことは、埼玉県唯一の戦災復興都市となった我が町で、市の職員らが県の指導の下に国とのパイプ役である政治家らと一丸になって街の復興に当たったということでした。それと共に、思い出すのは、文化の復興を特に子どもたちのためにと尽くした人たちのこと。その中心になったのは熊谷寺・石上寺・円照寺の先代住職、ヤノ薬局の矢野泰介さんなどでした。私は熊谷市文化連合のマークが好きです。平和のシンボル、鳩がモチーフとなっています。

折しも、平和を願う人たちの一つのシンボルであった「アベ政

治を許さない」スタンディングが終りました。新総理が決まっても、私たちの国はたくさんの矛盾を抱えたままで。平和を願う行動することがまちづくりと連動するようない、そんな熊谷であってほしいです。

## 熊谷平和講座

熊谷平和講座は新型コロナウイルス感染防止に配慮し、会場のガイドラインに従い予約制(人数制限)で再会しています。10月の講座は下記により開催予定です。

- 「人種差別を考える」(BLM 運動の歴史的背景) 講師 加藤一夫さん
- 日にち 10月24日(土) 9:30~

## ～ カンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、会計報告はこの紙面により行います。

### ゆうちょ銀行

口座記号・記号:00100-7-265321

加入者名:熊谷空襲を忘れない市民の会

口座名称カナ:クマガヤクウシュウワスレナイ  
シミンカイ

### 他行からの振り込みの場合は

店名(店番):0一九店(019)

預金種目:当座

口座番号:0265321

### 会計報告(2020/2/5~2020/9/27)

収入:45,404円

支出:23,193円

残高:136,026円

編集委員 吉田庄一 米田主美

連絡先 吉田庄一(090-4957-9181)

メール imajn241@gmail.com

HP <http://www.peace-kumagaya.org/>

- 出版社 東方社
- 価格 一八〇〇円



当会共同代表の米田主美さんが詩集「私が生まれた日」を出版しました。米田さんは熊谷空襲の日に生まれました。お父さんは特攻で出たままその五か月前に戦死しています。育ててくれたお母さんへの感謝とお父さんへの思慕、空襲犠牲者への鎮魂と平和への願いが込められています。

\*\*\* お知らせ \*\*\*

## 米田かずみ詩集 私が生まれた日



米田は詩を書き始めて間もない詩人だが、一昨年の大田玉若賞、昨年の埼玉文学賞準賞と立て続けに受賞作選んでいる。それは現代詩というエッセイに凝り、自己の体験を直撃に見つめ、現実に対峙しているからであらう。米田にとって今を生きていくこと、詩を書くことは、同じである。

（印刷所）熊谷市印刷所